

# シーズンイン時の初出港に際して

そのプレジャーボートの出港  
ちょっと待った！！

## 整備士による点検

- ボートを買った販売店や整備士がいるマリナーで、出港前に点検をしてもらいましょう。

点検できない場合でも・・・

## 燃料タンクのチェック

- 燃料タンクが満タンまたは、空で長期間使用していない場合は、結露により水分が含まれる場合があります。
  - ▶ 水分が含まれている可能性がある場合はドレイン抜きから水分を抜きましょう！
- 燃料フィルタの目詰まりはないですか。
  - ▶ ゴミが溜っている場合は、フィルタの清掃または交換をしましょう！
- 燃料は十分ありますか。▶ 燃料欠乏で動けなくなることを防止します。

## バッテリーの電圧チェック

- バッテリーチェッカーなどを使って、バッテリーの状態を確認しましょう。
  - ▶ 電圧の低下を感じた場合は、補充電やバッテリーの交換をしましょう。
- エンジンを停止したときは、アクセサリバッテリーに切り替えてGPS等の機器を使用しましょう。
  - ▶ アイドリング状態では、バッテリーにはほとんど充電されないので注意しましょう。

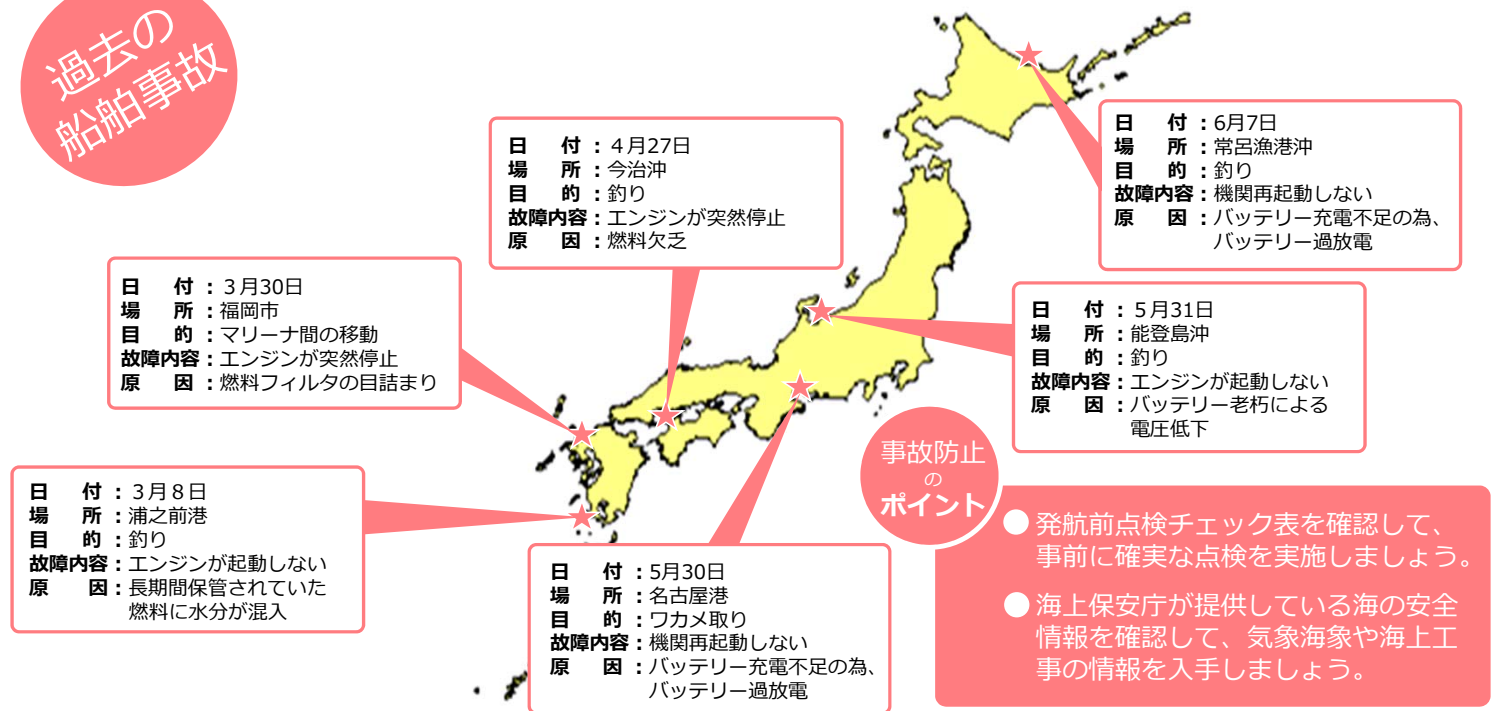


例) バッテリーチェッカー  
1,000円程度

## 久しぶりの出港の場合は確実にチェックしましょう。

春先は冬場使用（点検）していない船の多くが出港し、桜前線の北上を追いかける様に機関故障する事例が増えています。

過去の  
船舶事故



事故防止  
のポイント

- 発航前点検チェック表を確認して、事前に確実な点検を実施しましょう。
- 海上保安庁が提供している海の安全情報を確認して、気象海象や海上工事の情報を入手しましょう。

発航前点検を徹底し、楽しいマリンレジャーを！

お問い合わせ先  
第四管区海上保安本部  
交通部安全対策課  
電話052-661-1611

# 発航前点検チェックリスト

簡単な発航前点検があなたと同乗者の命を守ります。

**発航前点検は、船長の義務です。**




■ 船体 ■ 操縦席 ■ 機関


## 船体の点検

- ①  船体に亀裂や穴はあいていないか。  
※穴があれば、水が船内に入ってきます。
- ②  ステアリングやクラッチレバーはなめらかに動くか。
- ③  係留ロープに擦り切れなどの損傷・変形はないか。  
※長期間係留していると、ロープが劣化している可能性があり、要注意です。

## 燃料系の点検

- ④  航海計画に見合った燃料は十分にあるか。  
燃料ゲージは備付の計器がある場合は、目盛を記載しましょう。 → 
- ⑤  燃料フィルタ及び燃料配管の汚れ、目詰まりはないか。
- ⑥  燃料タンクに水が溜まっていないか。

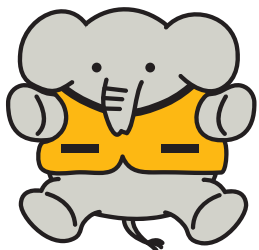
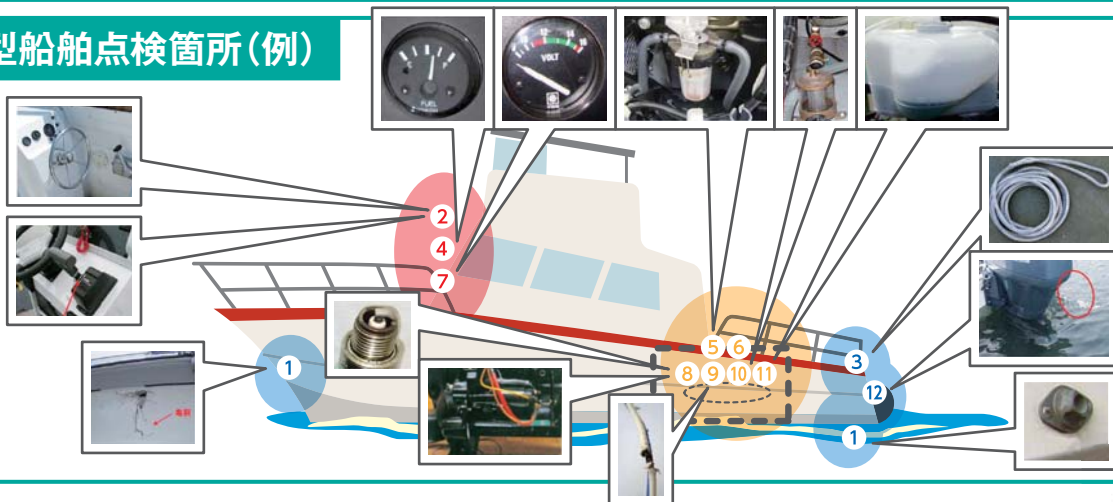
## 電気系の点検

- ⑦  電圧が弱くなっていないか。  
電圧計ゲージは  ※機関を停止したまま魚群探知機やレーダ、エアコンを頻繁に使用する場合は要注意です。
- ⑧  プラグやスターターモータに異常はないか。  
※不具合があれば、今は良くても沖合で機関が始動できなくなるかもしれません。
- ⑨  電気配線や端子は劣化、緩みはしていないか。

## 冷却水系の点検

- ⑩  冷却水用フィルタは汚れていないか。
- ⑪  冷却水は規定量あるか。
- ⑫  冷却用の海水は通常どおり排出されているか。

## 小型船舶点検箇所(例)



**安全のため、船舶の定期検査・中間検査も必ず受けましょう!**

**国土交通省 海上保安庁**

